

展覧会事業

展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

【収蔵展】

世界でも有数の2万5千点以上の写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画した。珠玉の名作を順次紹介すると共に、展覧会をパッケージ化し、館発の他館への巡回展を行った。

① 写真コレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、「ポートレート」をテーマに約半年にわたって三部構成で連続展覧会を開催した。図録の代わりとして講談社から一般書籍として『肖像 ポートレート写真の180年』を出版した。また、「スナップショット」の歴史と意味をテーマにした展覧会を、同じ「スナップショット」を題材にした新進作家展と同時公開し、スナップショットの過去と現在を検証した。

② 重点収集作家・新規重点収集作家の展覧会

「日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する」という写真作品収集の基本方針に基づき設定された新規重点収集作家、オノデラユキのミッド・キャリア展「オノデラユキ 写真の迷宮(ラビリンス)へ」展を開催し、それを記念して淡交社から作品集を出版した。また韓国・ソウルのハンミ写真美術館で彼女の個展が同時開催された(平成22年9月11日(土)～12月4日(土))。なおこの展覧会が評価され、オノデラユキ氏は芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

③ 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

平成18年度から開始した、日本全国の美術館や博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末・明治中期の写真・資料を調査し体系化する試みである「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」展の第3回として、四国・九州・沖縄編を開催した。この展覧会は長崎歴史文化博物館と熊本県伝統工芸館に巡回を予定している。

「東京都写真美術館コレクション展 写真家ユージン・スミスー東洋の巨人・日立をとらえた眼」展を日立市郷土博物館で平成22年10月23日(土)～12月5日(日)まで開催した。

④ 映像展の展開

写真美術館の映像コレクションの5つの指針であるテーマを毎年

取り上げるシリーズとして「映像をめぐる冒険」展を平成20年にスタートさせ、第3回として「3Dヴィジョンズ 新たな表現を求めて」展を開催し、立体視の歴史と最新技術を生かした現代の表現を、収蔵作品を中心に新たな視点から紹介した。

【自主企画展】

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を、国際動向もふまえて実施した。また、国内外の美術館等と共同企画し、他館への巡回展を実施した。

① 中堅作家の個展

新規重点収集作家である森村泰昌の新作に焦点を当てた大型展を、2、3階の展示室を使い、「森村泰昌：なにものかへのレクイエムー戦場の頂上の芸術」展として豊田市美術館、広島市現代美術館、兵庫県立美術館と共同企画で開催した。なおこの展覧会が評価され、森村泰昌氏は第52回毎日芸術賞および2011年日本写真協会作家賞を受賞した。

新規重点収集作家である「古屋誠一 メモワール」展を熊本市現代美術館と共同企画で開催した(熊本展：平成22年9月18日(土)～11月28日(日))。

② 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

独自の発展を見せた日本のピクトリアリズムの名品を集めた展覧会「芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム 珠玉の名品展」を国内の美術館等と協力して開催した。

③ 国際展

平成10年に開催した「ラヴズ・ボディーヌード写真の近現代」展に続き、同じタイトルを冠した展覧会の第2弾として、エイズと対峙したゲイのアーティスト8人の作品を取り上げた「ラヴズ・ボディー 生と性を巡る表現」展を国内外の関係機関と協力して開催した。なおこの図録に掲載された論文で笠原美智子が2010年美連協カタログ論文賞(自主展部門)の優秀論文賞に選出された。

④ 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるシリーズ第9回として、スナップショットをテーマに「日本の新進作家展vol.9ニュー・スナップショット [かがやきの瞬間]」展を開催した。また、平成21年度の新進作家展「出発ー6人のアーティストによる旅」展がポルトガルのレイリア市立ギャラリー(平成22年5月31日(月)～7月10日(土))、メキシコのモデロ科学産業博物館(平成22年10月1日(金)～10月24日(日))、メキシコ市写真アーカイブ博物館(平成22年12月16日(木)～平成23年2月6日(日))およびメキシコ・ハラッパのベラクルス大学ギャラリー(平成23年2月16日(水)～3月31日(木))で、国際交流基金の事業として開催された。

【誘致展】

写真月間との共催や、写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

展覧会事業
収蔵展

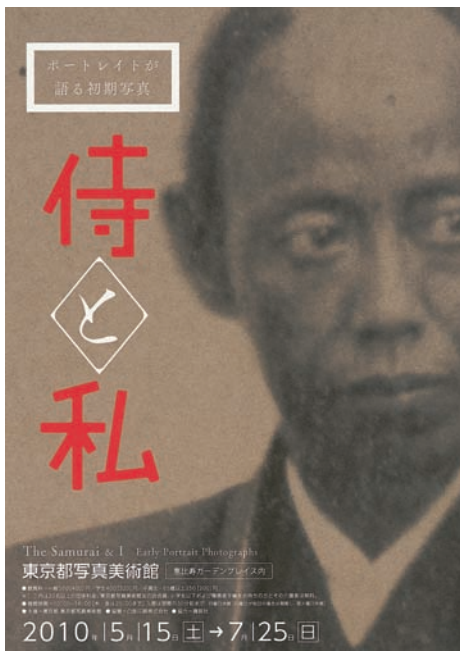
侍と私ーポートレートが語る初期写真ー The Samurai & I Early Portrait Photographs

期 間 平成22年5月15日(土)～7月25日(日)
62日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 講談社
出品作品数 216点

個人的に使われる写真と、公的に使われる写真の両方面から初期写真を取り上げ、単身像(1人の姿をとらえた写真)をモチーフに、ポートレートから歴史を辿った「侍と私ーポートレートが語る初期写真」。

日本の初期写真は、侍の単身像などのポートレートが中心にはじまったといえる。急激な時代の変化の中で「姿を残したい・伝えたい」という思いから私的な肖像は拡がり、やがてそれは御真影に象徴される公的なものの創造へと押し上げられた。これに対して、西洋では王や貴族などに限られた肖像画が写真によって民主化され、広く一般に広まっていった。

人々が自分たちの足跡を残すために託したポートレート。第1章「日本」第2章「西欧」第3章「交差」の3章構成で日本と西欧における初期写真の表現を当館コレクションから選りすぐられた作品に特別出品を加えた216点で構成した。



私を見て！ ヌードのポートレート Look at me! Portrait photographs of nude

期 間 平成22年7月31日(土)～10月3日(日)
56日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 講談社
出品作品数 150点

ポートレートのなかでもヌード写真を取り上げた。ただヌードといっても、写されている人間を「個人」として写しているものから、オブジェなどと同じように、美しい曲線を持つ物体としてとらえているものまで、多様な作品が存在しているが、この展覧会では前者を取り上げた。

ヌードの表現も、他の写真表現と同じように、19世紀のピクトリアリズムの時代には、古典絵画を手本とした構図のヌード、そして20世紀に入ると写真本来の機能を生かしたようなモダニズム的なヌードと、表現の方向性が時代によって変化している。そして被写体もモデルやダンサーなどから、恋人、家族から自分自身をとらえたものなど、対象も広がっている。単なるポートレートではなく、敢えて服を脱いだ人を撮影することで、写真家達は、どのようにそれぞれ時代をとらえようとしたのか。これらの表現を通して、その時代の社会の持つ問題や意識の差などが浮かび上がっている展示となった。



二十世紀肖像 全ての写真は、ポートレートである。 Human Images of 20th Century: All Photographs are Portraits.

期 間 平成22年10月9日(土)～12月5日(日)
51日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 講談社
出品作品数 173点

本展では、20世紀の人間像に目を向け、当館の豊富なコレクションのなかから人間を被写体とする作品を5つのパートに分けて展示構成を行った。多様なスタイルによるポートレート表現をそれぞれの時代・社会の感性や美意識、理想と現実の姿を映し出すものととらえ、スタジオポートレート、シュルレアリズム表現、社会派ドキュメンタリー、都市のスナップショット、広告ファッション写真、個人的な私写真表現などをとりあげた。さらに身体をモチーフとして見る者の想像力に働きかけるような写真表現にも目を向け、さまざまな価値観や生のあり方が変貌した激動の時代に生きる人間たちの「二十世紀肖像」として紹介した。出品点数173点により、ポートレート写真の可能性や人間をテーマとする写真の多様性と魅力を探る展示となった。

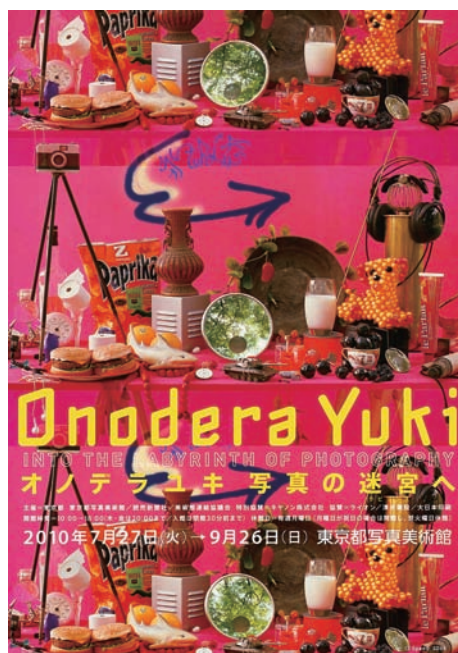


オノデラユキ 写真の迷宮(ラビリンス)へ Onodera Yuki Into the Labyrinth of Photography

期 間 平成22年7月27日(火)～9月26日(日)
54日間
主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／
美術館連絡協議会
特別協賛 キヤノン株式会社
協 賛 ライオン株式会社／清水建設株式会社／
大日本印刷株式会社
出品作品数 60点

1990年代から頭角を現し、日本の写真表現に新風を吹き込んだ新世代の写真家、オノデラユキ(1962～)。独学で写真技術を身につけたオノデラは、「写真新世紀」第1回公募展での第1回優秀賞受賞作《君が走っているのだ、ぼくはダンボの耳で君を待つ》でミステリアスな視覚世界を表現し、高く評価された。

ある時はカメラに細工を施し、ある時はシュールなコラージュによって、またある時には思わぬアングルから被写体をとらえるなど、常に独自の作品世界を創り出している同氏の作品。本展では当館の新収蔵作品「Transvest」、「12speed」を含む主要シリーズを集め約60点を展示した。



スナップショットの魅力[かがやきの瞬間] Snapshots Cast Their Spell Radiant Moments

期 間 平成22年12月11日(土)～平成23年2月6日(日)
45日間
主 催 東京都 東京都写真美術館／東京新聞
後 援 アメリカ大使館／フランス大使館／シブヤ大学
出品作品数 97点

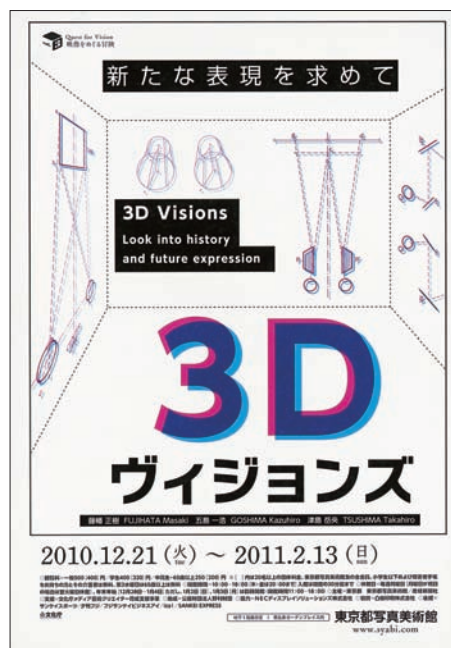
「ニュー・スナップショット」展との同時開催。写真史を代表する作家から新進気鋭の作家まで、スナップショットの感覚的な魅力を紹介。新規収蔵作品のポール・フスコの「Funeral Train」、ザ・サートリアリストほか、借用作品であるウォーカー・エヴァンズの「Subway Portrait」、アレクセイ・プロドヴィッチの写真集『Ballet』、ライアン・マッギレンの「High flyers(『New York Times Magazine』)、鷹野隆大の「カスババ」などに注目が集まる。



映像をめぐる冒険 vol.3 3Dヴィジョンズ 新たな表現を求めて Quest for Vision vol.3 3D Visions -Look into history and future expression-

期 間 平成22年12月21日(火)～平成23年2月13日(日)
43日間
主 催 東京都 東京都写真美術館／産経新聞社
支 援 文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業
助 成 公益財団法人 野村財団
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 NECディスプレイソリューションズ株式会社
後 援 サンケイスポーツ／タ刊フジ／
フジサンケイビジネスアイ/iza/
SANKEI EXPRESS
出品作品数 100点

2008年より開催している「映像をめぐる冒険」シリーズの第三弾として開催。「立体視」をテーマに、3D映像の起源とこれからの3D表現の行方を探る内容となった。約170年にもおよぶ立体視の歴史を、ステレオ写真やステレオスコープなどの収蔵作品を通して紹介するとともに、藤幡正樹、五島一浩、津島岳央の立体視を利用した作品を展示し、3Dの新たな可能性を探った。



夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編

The Dawn of Japanese Photography [Shikoku, Kyusyu, Okinawa district]

- 期 間** 平成23年3月8日（火）～5月8日（日）
18日間（平成23年3月31日までの開館日数）
- 主 催** 東京都 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／
美術館連絡協議会
- 協 賛** ライオン／清水建設／大日本印刷
- 協 力** 日本大学芸術学部／長崎大学附属図書館／
長崎歴史文化博物館
- 出品作品数** 340点（会期中展示替えあり）

日本全国の美術館、博物館、資料館等の公開施設を持つ機関が所蔵する幕末～明治中期の写真・資料を調査して、体系化する初めてのシリーズ的試み「日本写真開拓史」の第三弾。

本展では、関東編、中部・近畿・中国地方編に引き続き、現存する貴重なオリジナルの写真作品・資料を展覧。出品作品は、当館収蔵作品および協力機関である日本大学芸術学部の収蔵作品のほか、約2,200の施設へ収蔵調査を行い、所蔵が明らかになった多くの未公開作品からなっている。

現在にまで伝わる貴重な写真に触れる希有な機会となるとともに、表現という概念が存在しなかった時代の写真にも作品性が根源的に宿ることを実際のオリジナル作品によってモノとして体験できる機会とした。



展覧会事業
自主企画展

森村泰昌：なにものかへのレクイエム
—戦場の頂上の芸術

MORIMURA Yasumasa: A Requiem :Art on Top of the Battlefield

- 期 間 平成22年3月11日(木)～平成22年5月9日(日)
35日間(平成22年4月1日以降の開館日数)
- 主 催 財団法人東京都歴史文化財団(平成22年4月1日よ
り公益財団法人)東京都写真美術館/東京新聞
- 協 賛 株式会社資生堂/
富士フィルムイメージング株式会社/
株式会社ニコン/
株式会社ニコンイメージングジャパン/
凸版印刷株式会社
- 協 力 NECディスプレイソリューションズ株式会社/
写真弘社/ShugoArts/財団法人草月会/
株式会社キクチ科学研究所

出品作品数 43点

絵画の登場人物や映画女優などに自らが「なる」変身型セルフポ
ートレイトを手がける美術家・森村泰昌の個展。この展覧会では、
報道写真をテーマに20世紀の男たちに扮する新作シリーズ「なに
ものかへのレクイエム」を完全版で紹介した。三島事件やヴェトナム
戦争などを題材に、激動の1960-70年代を彩った男たちを独自
の手法で再解釈した2006年発表のシリーズ第一章「烈火の季節」、
独裁者、ゲバラ、毛沢東をはじめ20世紀を代表する歴史上の人物
を作品化した2007年発表の第二章「荒ぶる神々の黄昏」に加え
て、ピカソ、ダリ、ウォーホルといった20世紀の芸術家たちに扮
する第三章「創造の劇場」、歴史の分岐点1945年の記憶を未来へ
問い直す第四章「1945・戦場の頂上の旗」を新作シリーズとして
初公開した。2フロアを使って写真・映像作品43点を展示。



古屋誠一 メモワール。
「愛の復讐、共に離れて……」

Seiichi Furuya Mémoires.

- 期 間 平成22年5月15日(土)～7月19日(月・祝)
57日間
- 主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都写真美術館/産経新聞社
- 協 力 オーストリア大使館/IZU PHOTO MUSEUM/
株式会社アイワード/
フォト・ギャラリー・インターナショナル
- 協 賛 東京都写真美術館支援会員
- 後 援 サンケイスポーツ/タ刊フジ/
フジサンケイビジネスアイ/iza!/
SANKEI EXPRESS

出品作品数 124点

オーストリアを拠点に活動する古屋誠一の個展。今回の展示で
は、1989年より発表を続けている代表作「メモワール」シリ
ーズを中心に構成。妻の自死をきっかけに始まった同シリーズ
において、事実と正面から向き合い、時間と空間を超えてなお
生き続ける記憶を、蘇生させ編み直してきた制作活動の集大成
とした。また、作家が重要視する写真編集の過程を公開するた
め、自らが編集・製本した未発表の自家版写真集も多数展示し
た。



ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現 love's body - art in the age of AIDS

期 間 平成22年10月2日（土）～12月5日（日）
57日間

主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都写真美術館／朝日新聞社

助 成 芸術文化振興基金／財団法人石橋財団／
財団法人アサヒビール芸術文化財団／
Asian Cultural Council／オーストラリア大使館

後 援 米国大使館

協 賛 株式会社ニコン／
株式会社ニコンイメージングジャパン／
株式会社資生堂／凸版印刷株式会社／
東京都写真美術館支援会員

協 力 アサヒビール株式会社／
京都精華大学情報館メディアセンター／
community center akta／
ウェスティンホテル東京／TOKYO FM

出品作品数 78点

東京都写真美術館では1998年11月から99年1月に「ラヴズ・ボディ ヌード写真の近現代」と題した展覧会を開催し、好評を博した。ヌード写真をエロスや性の表象としてだけでなく、関係性や主体性などの視線の力学によって捉え直し、新たな身

体の表象の可能性や意味を考える展覧会だった。「ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現」は、そうした現代の身体表象から導き出された問題をより鮮明にしようとする試みである。

現在、世界が共有する問題としてエイズがある。1980年代後半から90年代前半、エイズは単なる不治の病として多くのアーティストの命を奪っただけではなく、「エイズ」を巡ってあぶり出された社会的偏見や差別、社会への疑問が、写真・美術のあり方を根本的に問い直す契機となった。

エイズを抱えた多くのアーティストがエイズに向き合い制作することで、この「社会的病」を自分たちの問題として捉え、エイズがわたしたちに問いかける様々な作品が生まれた。そして今も、セクシュアリティの変容や他者表現、身体表象、アートと政治の問題など、新たな表現の可能性を思索している。この展覧会は美術や写真のある側面に大きな変化を与えるほどに影響力を持つそうした作品の意味を検証し、問い直す試みである。

出品作家：ウィリアム・ヤン、AAブロンソン、ピーター・フジャー、デヴィッド・ヴォイナロヴィッチ、エルヴェ・ギベール、フェリックス・ゴンザレス＝トレス、スニル・グプタ、ハスラー・アキラ／張由起夫



日本の新進作家展vol.9

ニュー・スナップショット [かがやきの瞬間]

The New Snapshot

Contemporary Japanese Photography, vol.9

期 間 平成22年12月11日(土)～平成23年2月6日(日)
45日間
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都写真美術館／東京新聞
助 成 財団法人地域創造
後 援 イスラエル大使館／イタリア文化会館／シブヤ大学
協 賛 東京都写真美術館支援会員
協 力 エプソン販売株式会社／キヤノン株式会社／
株式会社コスモインターナショナル／
有限会社東京カラー工芸社／株式会社フレームマン
出品作品数 208点・映像4点

スナップショットをテーマに写真の未来の動向を展望した。出品作家は、池田宏彦、小畑雄嗣、白井里実、中村ハルコ、山城知佳子、結城臣雄の6人。

[出品作品]池田宏彦：<echoes>、小畑雄嗣：<二月>、白井里実：<ホーム・アンド・ホーム>、中村ハルコ：<光の音>、山城知佳子：<聴こえる唄 Choros of the melodies, 2010>、結城臣雄：<都市の襞, 2002-10>、<東京ノスタルジア, 2002-07>、<東京水景, 2001-04>、<無名の街, 2001-10>



芸術写真の精華

日本のピクトリアリズム 珠玉の名品展

Masterpieces of Japanese Pictorial Photography

期 間 平成23年3月8日(火)～5月8日(日)
18日間(平成23年3月31日までの開館日数)
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都写真美術館
助 成 財団法人朝日新聞文化財団
協 賛 株式会社資生堂／凸版印刷株式会社
東京都写真美術館支援会員
出品作品数 120点

19世紀中頃から絵画を模倣することによって写真の芸術性を確立しようとする動きが顕著になり、世紀末には世界を席巻した「ピクトリアリズム(絵画主義)」。

日本でも明治時代中期にアマチュア写真家たちが、西欧の動向を取り込みながら「芸術」としての写真のあり方を模索しはじめが、その模索は、日本の伝統的な絵画と受容したばかりの西洋絵画の両方を規範とする日本独自のピクトリアリズムの写真表現をかたちづくってゆくこととなった。

本展では、明治時代後半から1930年代までに制作された、日本が世界に誇る珠玉の名品120点と貴重な資料を一堂に集め、日本独自のピクトリアリズムの表現の精華を紹介する機会とした。



第3回 恵比寿映像祭

デイドリーム ビリーバー!!

Yebisu International Festival for Art & Alternative
Visions 2011: Daydream Believer !!

- 期 間** 平成23年2月18日(金)～2月27日(日)
10日間
- 主 催** 東京都/東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)/日本経済新聞社
- 共 催** 恵比寿ガーデンプレイス株式会社
- 後 援** アメリカ大使館/カナダ大使館/クオアチア共和国大使館/タイ王国大使館/チェコ共和国大使館/デンマーク大使館/ドイツ連邦共和国大使館/フランス大使館/ベルギー王国大使館/株式会社J-WAVE
- 支 援** 平成22年度文化庁メディア芸術人材育成支援事業
- 協 賛** オーストラリア大使館/オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム/チェコセンター/ベルギーフランドル交流センター/東京都写真美術館支援会員
- 協 力** NECディスプレイソリューションズ株式会社/株式会社エディスグローヴ/株式会社サブメディアジャパン/KyotoDU/びあ株式会社/エキサイトイズム/株式会社北山創造研究所/株式会社トリプルセブン・インタラクティブ/株式会社ロポット
- 出 品 点 数** 展示作品: 60点/上映作品: 91点

「デイドリーム ビリーバー!!」を総合テーマに、20カ国の作家およびゲストの参加を受け、全館を用い展示、上映、ライブ・イベント、トークなど多彩なプログラムを実施し、多様化する映像表現と、その受け止め方を問い直す国際フェスティバル。隣接する恵比寿ガーデンプレイス・センター広場やザ・ガーデンルームも会場に加え、さらに恵比寿近隣地域の各文化施設との連携により、各種の共催プログラムも実現した。

【展示】

出品作家: アビチャッポン・ウィーラセタクン/ダニエル・クルックス/ハロルド・ユージーン・エジャートン/タニア・ルイス・グティエレス/ダヴィッド・クレルボ/ヤン・シュヴァンクマイエル/ローレンス・ジョーダン/黒坂圭太/松本力/スーパーフレックス/水越香重子/ハヴィア・テレス/しりあがり寿/森弘治/ハルン・ファロッキ/ツァオ・フェイ

【オフサイト・プロジェクト】

「見えないスカートと想像上のものたち」

出品作家: ダニエル・ワイルド+アルバロ・カシネリ

デモ出演: アレッシオ・シルヴェストリン、青木尚哉/KENTARO!!

【上映】

プログラム: ①ヤン・シュヴァンクマイエルの夢 最新作《サヴァイヴィング ライフー夢は第二の人生》 ②石橋義正最新作《ミロクローゼ》 ③変形する奇オ-黒坂圭太 最新長編アニメーション《緑子/MIDORI-KO》 ④眼差しの系譜 ハルン・ファロッキ特集 ⑤ある場所、ある時間 ジェームズ・ベニング《ルール》 ⑥アナザー・ランドスケープ J・ベニング、西川智也、田村友一郎、H5、Groupe A.I.R Miyashita ⑦物語る映像ーシネミンガとエイドリアン・パチの場合 ⑧南南東に進路を取れ オーストラリア&ニュージーランド特集 プログラマー: マーク・フェリー ⑨メディアが結ぶ夢 エティエンヌ=ジュール・マレ、R・グラハム、K・ジェイコブス、園田枝里子、牧野貴 ⑩ファウンド・メモリーズ-B・コナー、L・ジョーダン、T・モファット&G・ヒルバーク、E・ボン、T・ウィルカーソン ⑪実験とアニメーション カキメーションと実写の交差点(久里洋二、中島興、関口和博、松本力、中田周作、相原信洋、田口行弘、BLU、ハリー・スミス) ⑫Cinema=Movement/1960s 城之内元晴、おおえまさのり&マーヴィン・フィッシュマン プログラマー: 平沢剛 ⑬音/映像 日本インディペンデント映画の冒険 鎮西尚一、Mark、宮本社朗、柴田剛 ⑭無声映画の誘惑 成瀬巳喜男《限りなき舗道》サイレント上映+弁士上映(弁士: 片岡一郎、伴奏: 柳下美恵)+ライブ演奏付上映(演奏: 鈴木木行) ⑮忘れられた映画の再発見 神戸映画資料館セレクション プログラマー: 安井善雄、リンク先: 神戸映画資料館 ⑯クオアチア 反映画、もしくは制度からはみだした映画 フィルム・ミュージーションズ プログラマー: ターニャ・ウルヴィロ リンク先: フィルム・ミュージーションズ ⑰ザ・サード・ライフ-ツァオ・フェイ/ジュン・ヤン特集 プログラマー: フー・ファン、リンク先: ヴィタミン・クリエイティブ・スペース

【ラウンジ・トーク】

ゲスト: タニア・ルイス・グティエレス/スーパーフレックス/市原研太郎/ダニエル・クルックス/フー・ファン/ジュン・ヤン/ミリアム・ヴァラディニス/西村智弘/ローレンス・ジョーダン/水越香重子/カルロス・ゴメス、溝口尚美(シネミンガ)/森弘治/しりあがり寿/ロジャー・マクドナルド/小澤慶介/柴田剛/宮本社朗

【ライブ・イベント】

ライブ: クロージング・ライブ「デイドリーム ビリーバーズ!!」

(出演: The Breadboard Band、松本力×VOQ、フォルマント兄弟、KENTARO!!、黒坂圭太)

レクチャー: A | 石井岳龍 [ex.聴互] レクチャー 映画の未来~3Dのその先へ~ (ゲスト: 石井岳龍 [ex.聴互]、大口孝之)/B | フィルム・キュレーションをめぐって (ゲスト: ターニャ・ウルヴィロ)/C | Yebizoラウンドテーブル 映画/映像/風景論——1960年代をめぐって (ゲスト: ローランド・ドメーニグ、松井茂、モデレーター: 平沢剛)

【地域連携プロジェクト】

参加施設: 団体: チェコセンター、NADiff a/p/a/r/t、MEM、G/P GALLERY、MAGIC ROOM???, 公益財団法人日仏会館、TMFB 仏メディア交流協会、TRAUMARIS、TOKIO OUT of PLACE、MA2 Gallery、ギャラリー工房 親、amu、特定非営利活動法人アーツインシアティヴトウキョウ [AIT]

※本事業は東京文化発信プロジェクトの一環として開催した。



展覧会事業
誘致展

ジャンル・シーフ写真展
Unseen & Best works

期 間 平成22年3月27日(土)～5月16日(日)
41日間(平成22年4月1日以降の開館日数)

主 催 産経新聞社
共 催 東京都写真美術館
後 援 在日フランス大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会/社団法人日本広告写真家協会/サンケイスポーツ/タ刊フジ/フジサンケイビジネスアイ/iza!/SANKEI EXPRESS

協 賛 株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャパン/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/ヴィーナスレコード株式会社

協 力 The Estate of Jeanloup Sieff
企 画 G.I.P.Tokyo

女性の肉体を表層的、知的な曲線で描き、華麗なモード写真では広角レンズでドラマ性を内に秘め、風景写真においては特有のミステリアスな光景を描き続けてきたジャンル・シーフ。本展では、写真家でシーフのモデルも務めたバルバラ夫人によって選りすぐられたシーフの未発表作品を初公開。1950年代、21歳の若さで『ELLE』のルポルタージュから出発し、以来、時代が経過しても何ら古臭さを感じない写真を数々残したシーフ。最後まで固有の表現方法、いわば独自のスタイルを貫き通したジャンル・シーフの世界を示した展示となった。



第35回写真公募展
日本写真家協会展
2010 THE 35th EXHIBITION OF THE JPS

期 間 平成22年5月22日(土)～6月6日(日) 14日間

主 催 社団法人日本写真家協会
共 催 東京都写真美術館
後 援 文化庁

1974年に写真文化の振興を目的に、写真愛好家を対象として始まったフォトコンテストの受賞・入選作品展で、今回で35回をむかえる。文部科学大臣賞に浅野金保の「春うらら」、金賞に根根健太郎の「二日酔いの朝」、銀賞に太田信子の「アートのある街角」及び後藤芙美子の「スイカと遊ぶ」、銅賞に吉田孝美の「祭りの帰り道」、木村 充宏の「Composition」、神田和幸「彩華」がそれぞれ受賞した。



世界報道写真展2010
WORLD PRESS PHOTO 2010

期 間 平成22年6月12日(土)～8月8日(日) 50日間

主 催 世界報道写真財団/朝日新聞社
共 催 東京都写真美術館
後 援 オランダ王国大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会

協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/ティエヌティエクスプレス株式会社

世界報道写真コンテストは、前年に世界中で報道された応募写真を対象に、各国から招聘された審査員約20名によって約2週間の厳選な審査を経て決定される。第53回を迎える今回は、128の国と地域5,847人の101,960点もの応募作品から、スポットニュース、ニュースの中の人々、ポートレイト、自然等、10部門に入賞した22の国と地域62人による168点の作品が展示された。大賞には、イタリア人写真家ピエトロ・マストゥルツォの「テヘランの建物の屋上からイランの現体制への抗議の言葉を叫ぶ女性」が選ばれた。



日本写真家協会創立60周年記念写真展
おんなー立ち止まらない女性たちー

期 間 平成22年8月14日(土)～8月29日(日) 14日間
主 催 社団法人日本写真家協会
共 催 東京都写真美術館
後 援 文化庁
協 賛 キャノンマーケティングジャパン/ニコン/ニコンイメージングジャパン/富士フイルム/オリンパス/エプソン販売/リコー/日本写真家協会賛助会員各社/特別協賛会社他
協 力 資生堂

日本写真家協会の創立60周年を記念し、日本の「おんな」をテーマとした記念展を開催。終戦から現在に至るまでの日本の女性たちにスポットをあて、写真の持つ「記録」と「表現」という特性を生かして、戦後の日本の歴史をふりかえり、日本社会の再建の一翼を担ってきた女性たちの行動の真髄に迫った。

黒澤明生誕100年記念画コンテ展
映画に捧ぐ
Akira Kurosawa Centenary
Exhibition All For Cinema

期 間 平成22年9月4日(土)～10月11日(月・祝) 33日間
主 催 ホリプロ/角川書店
共 催 東京都写真美術館
協 力 黒澤プロダクション/角川映画/東宝/松竹/ワーナー・ホーム・ビデオ/「海は見ていた」製作委員会/龍谷大学/レストラン黒澤グループ
後 援 文化庁/日本映画製作者連盟/ユニジャパン
企画・所蔵 ホリプロ

没後10年以上を経た今なお、映画界に燦然とその名前が輝き続ける巨匠、黒澤明。緻密で芸術的な黒澤の画コンテは、映画界のみならず美術界からも熱い注目を集めており、昨年のパリ市立ブチパレ美術館、トルコ共和国イスタンブール市のペラ美術館をはじめ、世界の由緒ある美術館で画コンテ展覧会が開催された。本展では、2,000点の画コンテから厳選した約140作品に加え、映画『夢』でゴッホ役を演じたマーティン・スコセッシ氏が所蔵する画コンテ10作品を日本で初公開した。

第21回日本写真作家協会展
第8回日本写真作家協会公募展
The 21th JPA Exhibition 2010

期 間 平成22年10月16日(土)～10月31日(日) 14日間
主 催 一般社団法人日本写真作家協会
共 催 東京都写真美術館
後 援 文化庁
日本写真作家協会の会員が出演する作品と、公募展の入賞・入選作品の二つの作品展を展示。
本年度は、会員による作品約181点に、全国からの応募作品2042点の中から入賞・入選した166点を加え、全347点を展示し、大阪・広島にも巡回した。



写真新世紀東京展2010
New Cosmos of Photography
Tokyo Exhibition 2010

期 間 平成22年11月6日(土)～11月28日(日) 21日間
主 催 キヤノン株式会社
共 催 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展では応募人数1,276人のなかから選ばれた優秀賞受賞者5名、佳作受賞者20名の受賞作品を展示した。また同時に前年度グランプリに選ばれたクロダミサトによる新作作品展を開催した。関連イベントとして11月19日(金)には1階ホールにて「公開審査会」(審査員：大森克己、佐内正史、榎木野衣、清水穰、蛭川実花)を開催した。

第11回上野彦馬賞受賞作品展
九州産業大学フォトコンテスト
UENO HIKOMA AWARD Exhibition

期 間 平成22年12月4日(土)～12月12日(日) 8日間
主 催 九州産業大学/毎日新聞社
後 援 文化庁/日本写真芸術学会/
東京都写真美術館/福岡県/
福岡県教育委員会/
RKB毎日放送/
スポーツニッポン新聞社
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/
サイバーグラフィックス株式会社/
株式会社ニコン/
富士フイルム株式会社/
富士フイルムイメージテック株式会社/
エプソン販売株式会社

わが国の<写真の祖>とも言われる上野彦馬の名を冠したこのコンテストは、明日の写真界へのデビューを夢見る若い写真家の発掘と育成を目的として創設された。プロ・アマを問わず、39歳以下の一般部門と高校生・中学生部門を併設しているのが特徴。第11回目となる今回は、一般部門608点、高校生・中学生部門1,966点、総計2,574点の作品が国内外から集まり、大賞をはじめとする入選作品104点を展示。また、企画展として萩市博物館古写真コレクションを50点展示した。



APAアワード2011
第39回社団法人日本広告写真家協会公募展
 APA Award 2011

期 間 平成23年3月5日(土)～3月20日(日) 11日間
主 催 社団法人日本広告写真家協会／第2回「全国学校図工・美術写真公募展」実行委員会
共 催 東京都写真美術館／全国造形教育連盟
後 援 経済産業省／文化庁／文部科学省／東京都教育委員会／財団法人 美育文化協会／財団法人 教育美術振興会
協 賛 オリンパス株式会社／オリンパスイメージング株式会社／加賀ハイテック株式会社／株式会社キタムラ／キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／株式会社玄光社／株式会社スタートラボ／ソニー株式会社／株式会社電通／凸版印刷株式会社／株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／株式会社日本カメラ社／株式会社博報堂／ピエ株式会社／富士フイルム株式会社／株式会社フレームマン／HOYA株式会社 PENTAXイメージング・システム事業部／株式会社堀内カラー／武蔵野美術大学／ライカカメラジャパン株式会社株式会社リコー
協 力 巡 回 法人賛助会員各社
 大阪市立美術館
 平成23年4月5日～4月10日

社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2011」の入選作品を一堂に展示した。
 広告作品部門は平成21年1月1日から平成22年8月31日までの期間に制作発表された印刷物を対象にした作品を、写真作品部門では「華はなやか」というテーマで一般公募された写真の中から、新たな表現へ挑戦した作品204点を選出し展示した。
 また、昨年から引き続き特設展示として「第2回全国学校図工・美術写真公募展」で全国の小・中学生から応募された写真を展示した。

ベッティナ ランス写真展
女神たちの楽園
 Bettina Rheims MADE IN PARADISE

期 間 平成23年3月26日(土)～5月15日(日)5日間(平成23年3月31日までの開館日数)
主 催 朝日新聞社
共 後 協 賛 東京都写真美術館
 フランス大使館
 野崎印刷紙業株式会社
 エールフランス航空／Numéro TOKYO

モデルやジャーナリストとしての活動を経て、1976年に写真家として独立を果たしたベッティナ・ランス。被写体となった多くの女性たちが放つ表現力や存在感は、ランスでなければ引き出せないと言われている。写真界にも男性的な視点がまだ多かった時代から、女性写真家のパイオニアとして活躍するランスの仕事は、ファッション雑誌でのモデル撮影から、エリゼ宮でのシラク元フランス大統領の撮影にまで及び、中でも女性のヌードを撮影した作品群は、被写体から寄せられる厚い信頼をもとに、高い評価を受けている。本展ではヌードを含む女性のポートレートを主題にこれまでの代表作を展示した。



教育普及事業 スクールプログラム

学校児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校・中学校・高等学校、大学および各種学校の授業とリンクした「スクールプログラム」を実施している。利用を希望する学校を対象に、展覧会の作品解説、暗室での写真プリントや教材キットを活用した実技的な体験プログラムを行った。大学の博物館学等で来館した学校団

体には、当館の展覧会業務や美術館活動についての概要説明、バックヤード見学等を実施した。

実施回数：46回（教員研修等をふくむ）

参加者数：1,056人



スクールプログラム実施風景写真

平成22年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	学年	授業区分	人数	プログラム
1	4月27日(火)	11:30-13:00	東京インターナショナルスクール	7年生(中1)	ART	22	暗室体験(フォトグラム)
2	4月29日(木)	10:30-13:00 14:00-16:30	東京写真学園	専門学校生	授業等	98	展覧会鑑賞(森村泰昌展)
3	5月19日(水)	15:30-16:30	東京総合写真専門学校	専門学校生	授業等	36	概要説明、展覧会鑑賞(古屋誠一展)
4	6月1日(火)	13:30-14:30	日本大学芸術学部	大学生	授業等	37	概要説明、写真の保存について
5	6月4日(金)	13:30-14:30	日本大学芸術学部	大学生	授業等	27	概要説明、写真の保存について
6	6月8日(火)	10:00-15:00	港区立御田小学校	4年生	図工	55	暗室体験(フォトグラム)、展覧会鑑賞(侍と私展)
7	6月16日(水)	15:00-17:00	千葉市立小中台中学校	1-3年生	美術	20	展覧会鑑賞(世界報道写真)展
8	6月24日(木)	10:00-12:00	渋谷区立神宮前小学校	5年生	図工	22	暗室体験(フォトグラム)
9	6月25日(金)	13:45-16:30	駒込高校	3年生	美術	13	カメラの仕組みを学ぼう
10	7月2日(金)	19:00-20:00	東京藝術大学	大学生	授業等	10	展覧会鑑賞(古屋誠一展)
11	7月6日(火)	18:00-19:30	東京造形大学	大学院生	授業等	18	展覧会鑑賞(古屋誠一展)
12	7月8日(金)	10:30-12:30	NHK文化センター	一般	講座	30	展覧会鑑賞(世界報道写真展)
13	7月10日(土)	13:30-15:00	JR東海生涯学習財団写真スクール	一般	講座	9	展覧会鑑賞(侍と私展)
14	7月13日(水)	10:00-12:00	大田区立清水窪小学校	6年生	図工	16	暗室体験(フォトグラム)、 展覧会鑑賞(世界報道写真展)
15	7月15日(木)	13:30-17:00	都教職員研修センター専門教育向上課	教員	教員研修	46	暗室体験(フォトグラム)
16	7月19日(月・祝)	10:00-12:00	九州産業大学	大学生	授業等	30	展覧会鑑賞 (世界報道写真展、古屋誠一展、侍と私展)
17	7月21日(水)	10:00-15:00	都立成瀬高校	1-3年生	美術部	7	暗室体験(フォトグラム、BWプリント)
18	7月22日(木)	10:30-12:30	ラーニング・トゥリー (小学生対象英語スクール)	小学生	ART	12	暗室体験(フォトグラム)
19	7月27日(火)	10:00-12:00	成城学園高校	高校生	授業等	12	暗室体験(フォトグラム)、 展覧会鑑賞(世界報道写真展)
20	7月27日(火)	13:00-15:00	武蔵野市立第6中学校	中学生	選択美術、美術部	11	BWプリント、フォトグラム、 展覧会鑑賞(世界報道写真展、オノデラユキ展)
21	7月29日(木)	10:00-13:00	武蔵野市立第5中学校	中学生	美術部	16	カメラの仕組みを学ぼう
22	8月18日(水)	13:30-16:30	学校連携フォーラム(学校教員研修)	教員	教員研修	19	驚き盤、暗室体験(フォトグラム)
23	8月25日(水)	10:00-12:00 13:30-15:30	京都造形芸術大学	大学生	見学旅行	16	暗室体験(BWプリント)
24	9月14日(火)	10:00-12:00	渋谷区立代々木小学校	6年生	図工	13	暗室体験(フォトグラム)
25	9月16日(木)	13:30-17:00	都教職員研修センター専門教育向上課	教員	研修	42	驚き盤
26	9月17日(金)	10:00-12:00	渋谷区立代々木小学校	6年生	図工	15	暗室体験(フォトグラム)
27	9月17日(金)	16:00-17:00	宮城学院女子大学	大学生	授業等	28	概要説明、写真の保存について
28	10月8日(金)	10:00-11:00	女子美術大学 版画研究室	大学院生	授業等	5	展覧会鑑賞(ラヴズ・ボディ展)
29	10月16日(土)	10:00-12:00	京都造形芸術大学 通信部	大学生	授業等	18	概要説明、バックヤード見学
30	10月16日(土)	10:00-11:00	京都造形芸術大学 通信部	大学生	授業等	27	展覧会鑑賞(ラヴズ・ボディ展)
31	10月17日(日)	13:30-15:30	練馬区美術館美術講座	小学生	講座	6	展覧会鑑賞(二十世紀肖像展)、驚き盤
32	10月22日(金)	14:00-15:00	立教大学	大学生	授業等	30	展覧会鑑賞(ラヴズ・ボディ展)
33	11月11日(木)	15:00-17:00	日本大学通信教育部	大学生	授業等	9	概要説明、バックヤード見学
34	11月24日(水)	10:00-11:40	江戸川区立第三松江小学校	4年生	図工	8	展覧会鑑賞(二十世紀肖像展)、驚き盤
35	12月3日(火)	17:00-18:00	東京工芸大学	大学生	授業等	15	展覧会鑑賞(ラヴズ・ボディ展)
36	12月5日(日)	10:00-11:00	首都大学東京	大学生	授業等	8	展覧会鑑賞(ラヴズ・ボディ展)
37	12月17日(金)	10:00-15:00	トキワ松学園中学校高等学校	中高生	写真部	17	暗室体験(BWプリント)
38	1月26日(火)	14:00-15:00	恵泉女学院	高校生	美術	9	展覧会鑑賞(ニュー・スナップショット展)
39	1月26日(水)	14:00-16:00	トキワ松学園高校	高校生	美術	22	フォトグラム、驚き盤
40	1月27日(木)	15:30-17:30	プリティッシュスクール・イン・ トーキョー	中高生	ART	15	コマ撮りアニメーション
41	1月28日(木)	10:00-14:30	文京区立根津小学校	5年生	図工	40	フォトグラム(驚き盤)
42	1月29日(金)	15:00-17:00	品川女子学院	中高生	写真部	10	カメラの仕組み(カメラオブスクラ)
43	2月10日(木)	10:00-12:00	品川区立清水台小学校	6年生	図工	18	コマ撮りアニメーション
44	3月8日(火)	10:00-12:00	港区立三光小学校	4年生	図工	19	コマ撮りアニメーション
45	3月9日(水)	10:00-12:00	世田谷区立尾山台中学校	中学生	美術部	20	コマ撮りアニメーション
46	3月10日(木)	13:00-15:00	葛飾総合高校	高校生	授業等	8	コマ撮りアニメーション
合計						1,056	

教育普及事業

ワークショップ・講演会・ギャラリートーク等

写真美術館は、写真と映像の二つの専門分野を総合的にあつかう美術館として、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを開館以来実施している。人々が写真、または新旧の映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することで、当館が生涯学習の場として機能することを目指している。

ワークショップ

来館者が写真映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することを目的に、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを実施した。

テーマ	講師	開催日	参加人数	参加費
BWプリント・ワークショップ	当館スタッフ	平成22年6月19日(土)	18人	一般 3,000円 学生 2,000円
		平成22年6月20日(日)	18人	
第3回 写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ	Q. サカマキ (WPP07受賞者、NY在住) 外山俊樹 (『AERA』フォトエディター)	平成22年7月17日(土) ～19日(月・祝)	27人	20,000円
クイック・ヒット・エッセイの公開レビュー	Q. サカマキ (WPP07受賞者、NY在住) 外山俊樹 (『AERA』フォトエディター)	平成22年7月19日(月・祝)	51人	無料
夏休みワークショップ 「カメラ・オブスクラとピンホールカメラ」	当館スタッフ	平成22年7月24日(土)	16人	1,000円
		平成22年7月25日(日)	16人	
オープン・ワークショップ 「驚き盤をつくろう！」	当館スタッフ	平成22年8月21日(土)	53人	無料
		平成22年8月22日(日)	70人	
BWプリント・ワークショップ	当館スタッフ	平成22年9月25日(土)	17人	一般 3,000円 学生 2,000円
		平成22年9月26日(日)	18人	
BWプリントワークショップ	当館スタッフ	平成22年12月11日(土)	15人	一般 3,000円
		平成22年12月18日(土)	18人	学生 2,000円
古典技法ワークショップ コロディオン・プロセス	田中里実 (日本大学芸術学部助教)	平成23年3月20日(日)	12人	一般 10,000円
		平成23年3月27日(日)	16人	学生 7,000円
合 計			365人	

共催ワークショップ

写真関連団体、企業等と連携して様々なワークショップを実施した。

テーマ	講師等	開催日	参加人数	参加費
小中学生を対象とした報道カメラマンの一日体験	主催：朝日新聞社文化事業部 東京都写真美術館	平成22年7月23日(金)	20人	1,000円
親子とはじめての方のための 「モノクロ写真体験教室」	主催：社団法人日本写真協会 東京都写真美術館 富士フィルム株式会社 協力：日本プリンター協会	平成22年7月10日(土)	56人	1,000円
		平成22年7月11日(日)	65人	
合 計			141人	



BWプリント・ワークショップ実施風景

講演会等

写真美術館で開催した展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数	
侍と私ーポートレートが語る 初期写真ー	記念講演会「幕末明治の肖像写真」	平成22年5月23日(日)	石黒敬章 (日本写真芸術学会評議員、ゆうもあくらぶ事務局長)	36人	
私を見て！ ーヌードのポートレートー	記念講演会「ヌード写真について」	平成22年8月29日(日)	高階 秀爾 (大原美術館館長)	121人	
二十世紀肖像 全ての写真は、ポートレートである。	記念講演会「家族のポートレート写真」	平成22年11月21日(日)	島尾伸三 (写真家・出品作家)、潮田登久子 (写真家)、 しまおまほ (漫画家)	58人	
オノデラユキ 写真の迷宮 (ラビリンス) へ	アーティストフロアレクチャー	平成23年7月30日(土)	オノデラユキ (出品作家)	128人	
	オノデラユキのスライドレクチャー ＜初公開！アートな写真のひみつ＞	平成22年9月4日(土)	オノデラユキ (出品作家)	80人	
映像をめぐる冒険 vol.3 3Dヴィジョンズ 新たな表現を 求めて	スペシャル・ライブ [Visual & Sound Programming for 3D]	平成22年12月23日(木・祝)	比嘉 了 (アーティスト・プログラマー)、 鈴木英倫子 (造形作家・音楽家)、谷口暁彦 (アーティスト)	68人	
	アーティストフロアレクチャー	平成23年1月6日(木)	五島一浩 (出品作家)	25人	
		平成23年1月20日(木)	津島岳央 (出品作家)、原田大三郎 (多摩美術大学教授)	33人	
古屋誠一 メモワール。 「愛の復讐、共に離れて……」	トークイベント「10年の旅、古屋誠一を追って」	平成23年1月28日(金)	藤幡正樹 (出品作家)	82人	
	トークイベント「愛の復讐、共に離れて…」	平成22年6月4日(金)	小林紀晴 (写真家)	153人	
ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現	対談「エイズとアート」	平成22年6月5日(土)	荒木経惟 (写真家)、倉石信乃 (明治大学大学院准教授/ 近現代美術史・写真史)	190人	
	アーティストフロアレクチャー	平成22年10月16日(土)	張由紀夫 (出品作家) × 溝口彰子 (ビジュアル&カルチュラル・スタディーズ)	80人	
		平成22年10月2日(土)	AA ブロンソン (出品作家)	58人	
		平成22年10月2日(土)	スニル・グプタ (出品作家)	64人	
	平成22年10月3日(日)	ウィリアム・ヤン (出品作家)	80人		
	スペシャル・イベント 「Think About AIDS」[公開録音] 共催：Living Together 計画/TOKYO FM 朗読会 (HIV陽性者の手記) + ライブ・パフォーマンス	平成22年11月8日(月)	中村 中 (歌手・作詞作曲家)、佐々木恭子 (フジテレビアナウンサー)、 マイア・バルー (ミュージシャン)、 あめぐみ (タレント)、 田中ロウマ (ミュージカル「RENT」キャスト)、ARATA (俳優)	190人	
ラヴズ・ボディ 特別講演会	平成22年11月13日(土)	堀江敏幸 (小説家、フランス文学者)	82人		
日本の新進作家展vol.9 ニュー・スナップショット [かがやきの瞬間]	アーティストフロアレクチャー	平成22年11月23日(火・祝)	出演：ジャンジ♥Madame Bonjour JohnJ. (パフォーマー) 藤原良次 (NPO法人りょうちゃんず代表) 長谷川博史 (編集者/NPO法人JaNP+代表) 映像：棚田清 (映画監督・映像作家)	190人	
		平成22年12月11日(土)	山城知佳子 (出品作家)	70人	
		平成23年1月2日(日)	池田 宏彦、小畑 雄嗣 (出品作家)	102人	
		平成23年1月3日(月)	池田 宏彦、小畑 雄嗣、結城 臣雄 (出品作家)	58人	
	Syabiz クリスマスライブ	平成23年2月4日(金)	白井里実 (出品作家)	105人	
第3回恵比寿映像祭	石井岳龍[ex.聴互] 映画の未来～3Dのその先へ～	平成22年12月24日(金)	ダニエル・コフリン (ギター)	256人	
	フィルム・キュレーションをめぐる	平成23年2月23日(水)	石井岳龍[ex.聴互] (映画監督)、大口孝之 (立体映画研究家)	47人	
		平成23年2月24日(木)	ターニャ・ヴルヴィロ (アーティストティックディレクター、 フィルム・ミュージシャンズ、ザグレブ)	24人	
	Yebizoラウンドテーブル 「映画/映像/風景論-1960年をめぐる」	平成23年2月26日(土)	ゲスト：ローランド・ドメーニグ (映画研究家)、松井茂 (詩人) モデレーター：平沢剛 (映画研究家・ゲスト・プログラマー)	63人	
	ラウンジトーク	クロージング・ライブ 「デイドリーム・ピリーバース!!」	平成23年2月27日(日)	The Breadboard Band / 松本カ+VOQ (本多裕史) / フォル マント兄弟 / 黒坂圭太 / KENTARO!!	164人
		ラウンジトーク	平成23年2月18日(金)	タニア・ルイス・グティエレス (出品作家)	72人
			平成23年2月19日(土)	スーパーフレックス (出品作家) × 市原研太郎 (美術評論家)	63人
			平成23年2月19日(土)	ダニエル・クルックス (出品作家)	172人
			平成23年2月19日(土)	フー・ファン (ゲスト・プログラマー) × ジュン・ヤン (出品作家)	92人
			平成23年2月20日(日)	ミリアム・ヴァラディニス (チューリヒ美術館キュレーター)	62人
			平成23年2月20日(日)	西村智弘 (映像評論家)	164人
			平成23年2月20日(日)	ローレンス・ジョーダン (出品作家)	142人
		平成23年2月21日(月)	水越香重子 (出品作家)	64人	
		平成23年2月22日(火)	カルロス・ゴメス、溝口尚美 (シネミンガ・出品作家)	85人	
	平成23年2月24日(木)	森弘治 (出品作家)	96人		
	平成23年2月25日(金)	しりあがり寿 (出品作家)	196人		
	平成23年2月26日(土)	ロジャー・マクドナルド & 小澤慶介 (AIT)	72人		
平成23年2月26日(土)	柴田剛 (出品作家) × 宮本杜朗 (出品作家)	184人			
オフサイト・プロジェクト 「ダニエル・ワイルド&アルバロ・カシネリ 〈見えないスカートと想像上のものたち〉」	平成23年2月23日(水)	ダニエル・ワイルド、アルバロ・カシネリ (出品作家) [レクチャー]	137人		
	平成23年2月19日(土)、 20日(日)、26日(土)	ダニエル・ワイルド、アルバロ・カシネリ (出品作家) [体験型デモンストレーション]	956人		
合 計				5,164人	

【誘致展】

展覧会	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
ジャン・ルーシーフ Unseen & Best works	カフェ・トーク“ジャンルー・シーフ”	平成22年4月18日（日）	ハービー・山口（写真家）	34人
日本写真家協会展（JPS展） 第35回写真公募展	講演会「くりかえす」	平成22年5月22日（土）	土田ヒロミ（写真家）	131人
世界報道写真展2010	トークセッション「今、報道写真に求められるもの」	平成22年6月12日（土）	片岡英子（ニューズウィーク日本版フォトディレクター、世界報道写真コンテスト2010審査員） 会田法行（写真家、早稲田大学講師）	106人
	若手カメラマンのトークセッション 「報道写真に命懸け」	平成22年7月3日（土）	岡原功祐（写真家）、山口元（写真家）、 会田法行（写真家、早稲田大学講師）	95人
「おんな」一立ち止まらない女性たち— 日本写真家協会創立60周年記念展	講演会	平成22年8月22日（日）	佐野真一（ジャーナリスト）	140人
黒澤明生誕100周年記念画コンテ展 映画に捧ぐ	「『乱』のアーカイブ資料を読み解く」	平成22年9月25日（土）	熊田将彦（黒澤プロダクション） 岡田至弘（龍谷大学教授工学博士）	45人
写真新世紀東京展2010	グランプリ選出公開審査会	平成22年11月19日（金）	審査員：大森 克己（写真家）、佐内 正史（写真家）、榎木 野衣（美術批評家）、清水 稜（写真評論家）、蛭川 実花（写真家）	190人
合 計				741人

【開館15周年記念事業】

開館15周年記念事業として、2階ロビーに設置した大型スクリーンを用いて行った上映プログラムに連動して、講演会を行った。

タイトル	開催日	講師等	参加人数
カフェ・プロジェクト ゲスト・トーク	平成22年7月16日（金）	分藤大翼（映像人類学者・信州大学准教授）	80人
合 計			80人

ギャラリートーク

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会	開催日	講師等	参加人数
侍と私—ポートレートが語る初期写真—	平成22年5月28日、6月11日・25日、7月9日・23日（金）	三井圭司（担当学芸員）	126人
私を見て！—ノードのポートレート— 二十世紀肖像 全ての写真は、ポートレートである。	平成22年8月13日・27日、9月10日・24日（金） 平成22年10月22日、11月12日・26日（金）	藤村里美（担当学芸員） 石田哲朗（担当学芸員）	128人 57人
オノデラユキ 写真の迷宮（ラビリンス）へ	平成22年8月6日・20日、9月3日・17日（金）	岡部友子（担当学芸員）	143人
「かがやきの瞬間」スナップショットの魅力	平成22年12月17日（金） 平成23年1月7日・21日、2月4日（金）	鈴木佳子（担当学芸員）	134人
映像をめぐる冒険 vol.3 3Dヴィジョンズ 新たな表現を求めて	平成22年12月24日（金） 平成23年1月2日（日）、3日（月）、1月14日・28日、 2月11日（金）	山崎潤也（担当学芸員）	198人
夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄地方編	平成23年3月11日・25日（金）	三井圭司（担当学芸員）	41人
森村泰昌・なにものかへのレクイエム —戦場の頂上の芸術—	平成22年4月9日・23日（金）	石田哲朗（担当学芸員）	83人
古屋誠一 メモワール。 「愛の復讐、共に離れて……」	平成22年5月21日、6月4日・18日、 7月2日・16日（金）	石田留美子（担当学芸員）	161人
ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現	平成22年10月8日・22日、11月12日・26日（金）	笠原美智子（担当学芸員）	129人
日本の新進作家展vol.9「かがやきの瞬間」 ニュー・スナップショット	平成22年12月17日（金） 平成23年1月7日・21日、2月4日（金）	鈴木佳子（担当学芸員）	138人
芸術の精華 日本のビクトリアリズム珠玉の名品展	平成23年3月18日（金）	金子隆一（担当学芸員）	11人
合 計			1,349人

【誘致展】

外部企画・資金を導入した誘致展においても、出品作家などによる展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
日本写真家協会展（JPS展）第35回写真公募展	平成22年5月28日（金）、6月4日（金）	日本写真家協会会員	32人
「おんな」一立ち止まらない女性たち— 日本写真家協会創立60周年記念展	平成22年8月19日（木）・22日（日）・26日（木）・ 29日（日）	写真家（日本写真家協会会員）	150人
写真新世紀東京展2010受賞作品公開レビュー、アーティスト・トーク	平成22年11月6日・13日（土）	2010年度、2009年度受賞者他	111人
合 計			293人

教育普及事業

あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿（文化施設連携事業）

1 趣旨

渋谷を中心としたJR3駅、渋谷、恵比寿、原宿を結ぶエリアには美術館、博物館、コンサートホール、テーマパーク、図書館など数多くの文化施設があり、それぞれの特徴を活かしながら多様な文化事業が展開されている。

本事業の趣旨は、これらの文化施設が連携することにより、従来にも増して、渋谷・恵比寿・原宿が魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、文化芸術に触れる場や機会の提供の拡充を図ろうとするものである。これにより人々の生活の中に文化が浸透し、地域社会に活力を与えることを目的とする。

2 連携施設

①NHKスタジオパーク ②C.C.レモンホール ③たばこと塩の博物館 ④トーキョーワンダーサイト渋谷 ⑤Bunkamura ⑥観世能楽堂 ⑦戸栗美術館 ⑧ギャラリーTOM ⑨渋谷区立松濤美術館 ⑩太田記念美術館 ⑪こどもの城 ⑫UNギャラリー ⑬セルリアンタワー能楽堂 ⑭白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 ⑮渋谷区ふれあい植物センター ⑯エビスビール記念館 ⑰東京都写真美術館 ⑱東京都立中央図書館 ⑲山種美術館 ⑳JICA地球ひろば ㉑環境パートナーシップ会議



かるチャー散歩地図

3 活動実績

(1) 「あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿」運営協議会の開催

参加館の担当者が集まり、連携事業についての協議や情報交換を行った。(実施回数8回)

(2) 広報宣伝

「あ・ら・かるチャー」ホームページ

参加館のホームページ上にバナーを設置、参加館の紹介をした。また、各施設のホームページにリンクを貼り相互PRを行った。

(3) 連携事業・イベント

(ア) 施設めぐり

昨年度の教育関係者への文化施設体験ツアーに続き、出版社・旅行代理店等の方に参加を募り、各施設の案内と活動報告、あわせて会場近隣の施設めぐりをおこなった。参加者は、7社14名だった。

文化施設体験ツアー

開催日：平成22年10月21日（木）

巡回施設

コース：たばこと塩の博物館 観世能楽堂 戸栗美術館
Bunkamura



施設めぐりの様子

(イ) 第33回渋谷区区民フェスティバルに参加

各施設の案内チラシの配布をはじめ、「あ・ら・かるチャークイズ」や福引き抽選会、施設の来場実績のアンケート調査、JICA地球ひろば、都立中央図書館によるオープンワークショップを実施した。

渋谷区区民フェスティバル

開催日：平成22年11月6日（土）・11月7日（日）

場所：代々木公園（渋谷区）

「あ・ら・かるチャー」のブースを出して渋谷・恵比寿・原宿地区の文化活動をアピール。二日間で延べ約2,600人の参加を得た。



「あ・ら・かるチャー」テント風景 親子で楽しめるワークショップ

教育普及事業

友の会／ボランティア／博物館実習

友の会

平成22年度は、会員から要望が多かった友の会の更新方法や会員証についての問題点を改善するため、12月に磁気カードを導入し、更新方法を簡便にした。併せてポイント制を導入し、特典も追加した。

また、今年度で3回目となる「友の会会員向け特別内覧会」を開催した。(平成23年3月から計4回開催。)内覧会では担当学芸員によるフロアレクチャーを行い、大変な好評を博した。

1 会員数 1,292人(平成23年3月末)

2 会員種別

- (1) 個人会員 2,000円
- (2) 家族会員 3,000円
- (3) シルバー会員 1,000円

3 会員特典(平成22年度の会員特典は以下の通り)

- (1) 収蔵展・映像展が無料
- (2) 誘致展・自主企画展が割引
- (3) ミュージアム・ショップでの買い物に5%引き(一部商品を除く)
- (4) 1階ホール(実験劇場)の割引(一部作品を除く)
- (5) 「写真美術館ニュースeyes(アイズ)」送付
- (6) 展覧会観覧ポイントを貯めて特典と交換

その他特典

- ・東京都歴史文化財団各施設での割引優待
- ・ロゴス渋谷店での割引(一部商品を除く)
- ・WINE MARKET PARTY恵比寿店での割引(一部商品を除く)

東京都写真美術館ボランティア

ボランティアスタッフの積極的な参加によってワークショップ、スクールプログラムといった来館者向けの体験プログラムの充実した活動を実施した。平成22年度は活動日数、参加者数が前年とほぼ同様となった。

1 登録者数: 65名

平成21年度からの更新登録者 58名
新規登録者 7名

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 41回 1ヶ月平均 約3回
のべ参加者 238人

(ただしボランティア研修会をのぞく。)年間一人あたり3.7回

- (1) ワークショップ・スタッフ活動 16回
- (2) スクールプログラム・スタッフ活動 25回

(3) 展覧会関連講演会スタッフ等 8回

- ボランティア研修会(暗室実技自主研修ほか)
平成22年4月17日(土)、5月22日(土)、5月29日(土)、
6月26日(土)、9月18日(土)、11月28日(土)、平成
23年3月19日(土)
- 新規ボランティア研修会・ボランティア交流会
平成22年5月29日(土)

博物館実習

写真美術館における美術館活動と学芸員および各部署の業務を実地で研修することによって、学芸員養成のための実習とした。平成22年度は展覧会業務、作品管理業務、教育普及業務の3つの実習グループに分かれて、10日間の実習を行った。

1. 受け入れ日程: 平成22年8月17日(火)～9月10日(金)
のうち10日間
2. 受け入れ人数: 12名
3. 受け入れ大学: 駿河台大学、多摩美術大学、帝京大学、東洋大学、明治学院大学、日本大学、女子美術大学、工学院大学、明治大学、埼玉大学、東京造形大学

作品資料収集／作品収集実績

●収集の基本方針

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1 国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2 写真の発生から現代まで、写真史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3 歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品の発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4 東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5 日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
6. 基本方針〔写真作品〕5に基づき作品を収集した重点作家（17人）
秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1 出版物（写真集、専門書、雑誌等）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2 ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3 ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4 その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1 写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2 体験学習などの事業活動に必要となるものを収集する。

[映像資料]

- 1 映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2 体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3 日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。

- 4 各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

●写真作品収集の新指針(平成18年11月13日策定)

- 1 写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2 黎明期の写真のように、希少価値的な作品を積極的に収集する。
- 3 写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4 1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5 新進展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6 写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7 基本方針〔写真作品〕5に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8 新指針7に基づく新規重点作家（21人）
荒木経惟 石内都 オノデラユキ 北井一夫 北島敬三 小山穂太郎 佐藤時啓 篠山紀信 柴田敏雄 杉本博司 鈴木清 須田一政 高梨豊 田村彰英 畠山直哉 深瀬昌久 古屋誠一 宮本隆司 森村泰昌 やなぎみわ 山崎博

平成22年度収集点数：376点

【内訳】国内写真作品：248点 海外写真作品：92点
映像作品資料：27点 写真資料：9点

東京都写真美術館コレクション点数：25,864点

【内訳】国内写真作品：17,360点 海外写真作品：5,340点
映像作品資料：2,272点 写真資料：892点

●作品収集実績

東京都購入案件

作家名	作品名	技法・サイズ (mm)	点数	制作年	備考
安井仲治	安井仲治ポートフォリオ集	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 432x356	30	1930~1941	ed. 15. printed in 2010 printed by 比田井一良
北井一夫	「抵抗」「バリケード」より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 406x508	32	1965~1968	新規重点収集作家、H24個展予定、購入決定につき寄贈6点
須田一政	東京景	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) 310x253	20	1975~1978	新規重点収集作家、H26個展予定、購入決定につき寄贈13点、 ワインテージ・プリント
畠山直哉	Slow Glass/Tokyo, Ciel Tombe	発色現像方式印画 900x600	17	2001~2007	新規重点収集作家、H23個展開催予定
BRONSON, AA	Anna and Mark, February 3, 2001	インクジェット・プリント 2135x3050	1	2001~2002	H22「ラヴズ・ボディ」展出品作品 ed.1/3
FUSCO, Paul	Untitled from "RFK Funeral Train"	銀色素漂白方式印画 457x686	8	1968	H22「スナップショットの魅力」展出品作品
GUPTA, Sunil	Mr Malhotra's Party	インクジェット・プリント 1067x1067	10	2007	H22「ラヴズ・ボディ」展出品作品 ed. 1/5
HUJAR, Peter	David Lighting Up, Gas Station at Night, Be Sweet, John McCellan (Asleep)	インクジェット・プリント 380x380	4	1976~1985	H22「ラヴズ・ボディ」展出品作品、財団から、 1.2.1/10 3.4.vintage
LARTIGUE, Jacques- Henri	My first photo of my cousin Simone Roussel 他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 260x349	4	1904~1919	H22「スナップショットの魅力」展出品作品
WINOGRAND, Garry	Apollo 11 Moon Shot, Cape Kennedy	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 279x356	1	1969	H22「スナップショットの魅力」展出品作品
WOJNAROWICZ, David	Untitled (Falling Buffalo)	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 279x356	1	1988~1989	「ラヴズ・ボディ」展出品作品Deition #1/1 from ed. of 5 財団から
The Sartorialist (SHUMAN, Scott)	ニューヨーク、2007年9月ほか	インクジェット・プリント 216x324	2	2007	H22「スナップショットの魅力」展出品作品
越田乃梨子	破れのなかのできごと〜壁・部屋・箱〜 (三部作)	その他のフィルム	3	2008	第2回恵比寿映像祭出品作品
ダムタイプ	OR, Memorandum	その他のフィルム	2	1998~2000	
藤幡正樹	故郷とは？ジュネーブにて/ Landing Home in Geneva	その他のフィルム	1	2005	H22「映像をめぐる冒険vol.3」展出品作品、
山城知佳子	OKINAWA墓庭クラブ、あなたの声は わたしの喉を通った、沈む声 赤い息	その他のフィルム	3	2004~2010	第2回恵比寿映像祭出品作品
CONNER, Bruce	A MOVIE, America is Waiting, BREAKAWAY, Looking for Mushrooms, COSMIC RAY	その他のフィルム	5	1958~1995	第1回恵比寿映像祭出品作品
General Idea	File Magazine, complete box set	オフセット印刷	1	1972~1989	第1回恵比寿映像祭出品作品
WEERASETHAKUL, Apichatpong	Windows	その他のフィルム	1	1999	第3回恵比寿映像祭出品作品
合 計			146		

東京都写真美術館購入案件

作家名	作品名	技法・サイズ (mm)	点数	制作年	備考
竹元斎重丸	薄歌	鶏卵紙に手彩色 745x199	1	1858	H22コレクション展出品作品、 書を書いた竹元斎重丸は海祖横山丸三の直弟子
紅谷吉之助	無題	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 275x228	1	1934	H24コレクション展「表現と技法」出品予定作品
作家不詳	題不詳 (明治期ヌード写真)	ゼラチン・シルバー・プリント(P.O.P)	5	1880~1889	
堀与兵衛ほか	題不詳 (岩田織部像) ほか	鶏卵紙 105x65	28	1867~1870	名刺判写真
DISDERI, Andre Adolphe Eugene	題不詳 (女性像) ほか	鶏卵紙 194x229	3	1854~1880 年頃	切りはなされる前の名刺判写真
MUNKACSI, Martin	Dancers in Seville 他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 356x279	10	1929~1938	H22「スナップショットの魅力」展出品作品
ROBINSON, William Henry Peach	He Never Told His Love	鶏卵紙 264x371	1	1884	英国王立写真協会、ジョージ・イーストマンハウス国際写真博物館、 テキサス大学ヘルムート・ゲルンシャイム・コレクション
STILLFRIED and ANDERSEN	明治風俗写真 (名刺判)	鶏卵紙に手彩色 105x62	3	1877~1883 年頃	
下郷羊雄、田島二男、坂田稔、 佐藤泰平、稲垣泰三、佐野秀雄	「超現実主義写真集 メセム風」	写真網目版印刷 183x128	1	1940	写真集、限定200部、作家自身による発行
合 計			53		

※東京都写真美術館購入案件53点については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

寄贈

作家名	作品名	技法・サイズ (mm)	点数	制作年	備考
秋山庄太郎	無題 (花)	発色現像方式印画 546x730	1	c.1970~1989	個人所蔵家より
小島柳蛙	「小島光真像」他	アンプロタイプ 105x75	9	1870~1889	寄託作品19点の内、平成20年度に10点購入し、残りを今回寄贈
渡辺義雄	内宮正殿	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 512x612	1	1953	個人所蔵家よりモダン・プリント1990年代
稲越功一	東京湾	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) 508x609	1	1986	H21「稲越功一 心の眼」展出品作品
小沢奎	題不詳	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) 150x120	1	1924	
北井一夫	「バリケード」より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) 406x508	6	1968	購入決定につき寄贈
鈴木八郎	空模様 草津道	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) 101x142	4	1921	
須田一政	東京景	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) 310x253	13	1975~1978	購入決定につき寄贈
鷹野隆大	「ヨコたわるラフ」より他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) 508x610	3	1999~2001	個人所蔵家より
永島京子	地下室01	その他のフィルム 182x257	1	1999	レンチキュラー、個人所蔵家より
野村佐紀子	「秘蜜」より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 190x265	2		個人所蔵家より
宮内幸太郎	第二回全国写真師大会記念撮影	コロタイプ印刷 205x277	2	1911	
東京印刷局他	明治期肖像写真	鶏卵紙 170x110	64	1870~1880	
作家不詳	題不詳他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 106x150	5	1921~1929	
作家不詳	下岡蓮杖像	ゼラチン・シルバー・プリント(P.O.P) 252x183	1	1911	
BELLMER, Hans	人形	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 133x133	2		個人所蔵家より
BURTON, William Kinnimond	磐梯山噴火	鶏卵紙 255x205	8	1888	H20写真購入分寄贈申告漏れ
FUSCO, Paul	Untitled from "RFK Funeral Train"	銀色素漂白方式印画 457x686	18	1968	購入決定につき寄贈
GLOEDEN, Wilhelm von	不詳 (若い男性2人像)	ゼラチン・シルバー・プリント(P.O.P) 215x148	1	1899	個人所蔵家より
MAPPLETHORPE, Robert	不詳 (セルフポートレイト)	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 350x350	1	1981~1995	個人所蔵家より
MUNKACSI, Martin	Bathers with Parasol, Berlin	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 279x356	1	c. 1929	購入決定につき寄贈
SMITH, William Eugene	Tomoko in her Bath	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	1	1972	個人所蔵家より
STURGES, Jock	不詳	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 365x460	1	1980~1999	個人所蔵家より
VILLERS, Andre	No. 17 Picasso S'owueae III a c annes et 1958	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 497x394	1	1958	個人所蔵家より
WILLIS, John	Recycled Realities	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 180x180	4	1999	作家からの申し出
The Sartorialist (SCHUMAN, Scott)	ストックホルム、2007年8月	インクジェット・プリント 216x324	6	c. 2007	購入決定につき寄贈
小川一真	大鏡着初式、TOKYO SNOW SCENES、御大喪儀写真帖	オフセット印刷	3		明治後期 H20写真美術館購入分寄贈申告漏れ
鈴木八郎	鈴木八郎関係資料		4		
渡辺義雄 他	デペンデントハウス 連合単家族用住宅集地	オフセット印刷	1	1943	H20写真美術館購入分寄贈申告漏れ
越田乃梨子	机上のゆくえ、机上の岸にて	その他のフィルム	3	2009~2010	第2回恵比寿映像祭出品作品
ダムタイプ	pH、S/N	その他のフィルム	2	1992~2005	貸出不可
藤幡正樹	Simultaneous Echoes, Field_work@ Hayama	その他のフィルム	2	2009	
古橋悦二	7 conversation styles	その他のフィルム	1	1985	貸出不可
山城知佳子	バーチャル継承、回想法	発色現像方式印画	3	2009	第2回恵比寿映像祭出品作品
	合 計		177		

●プリントスタディールーム

東京都写真美術館では、写真作品・資料の収集、展覧会等での展示・鑑賞をおこなっており、研究・鑑賞のために直接作品等を閲覧する特別閲覧（プリントスタディールーム）制度を設けている。（実績は66ページ）

平成22年度収蔵作品の紹介

東京都購入案件



安井仲治 《流氓ユダヤ 窓》 1941年
ゼラチン・シルバー・プリント



北井一夫 「抵抗」より 1965年
ゼラチン・シルバー・プリント



須田一政 「東京景」より 1975-78年
ゼラチン・シルバー・プリント



島山直哉 《Ciel Tombé #5602》 2007年
発色現像方式印画



AAブロンソン 《アンナとマーク、2001年2月3日》 2001-02年
ヴィニールにラッカー・デジタル・プリント



ポール・フスコ 《ロバート・F.ケネディの葬式列車》 1968年
銀色素漂白方式印画



スニル・グプタ 《ピクラム》 2007年
インクジェット・プリント



ピーター・フジャー 《煙草に火をつけるデヴィッド》
1985年制作、2010年プリント インクジェット・プリント



ジャック・アンリ・ラルティエグ 《パリからルザへの道で》
1919年 ゼラチン・シルバー・プリント



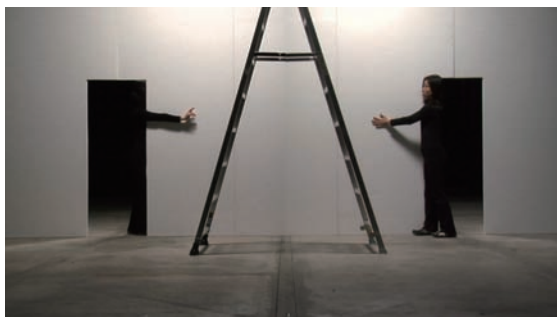
ゲイリー・ウィングランド 《アポロ11号、月ロケットの打ち上げ、ケネディ宇宙センター、フロリダ》 1969年
ゼラチン・シルバー・プリント



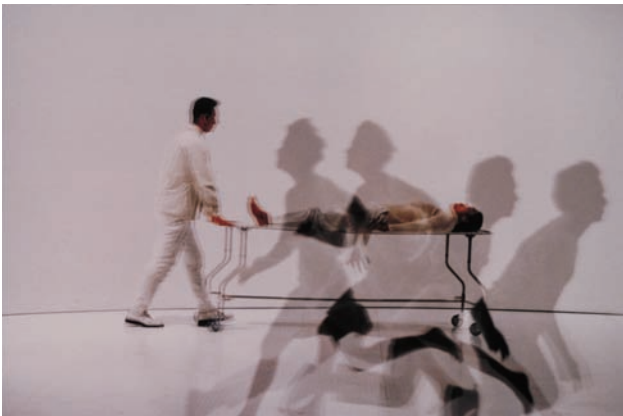
デヴィッド・ヴォイナロヴィッチ 《無題(転げ落ちるバッファロー)》
1988-89年 ゼラチン・シルバー・プリント



ザ・サートリアリスト 《ニューヨーク》 2007年9月
インクジェット・プリント



越田乃梨子 《破れのなかのできごと〜壁〜》 2008年
シングルチャンネル・ビデオ



ダムタイプ 《OR》 1998年／初演：1997年
シングルチャンネル・ビデオ © Arno Declair



藤幡正樹 《故郷とは？ジュネーブにて／Landing Home in Geneva》
2005年 インタラクティブ・ビデオ・インスタレーション



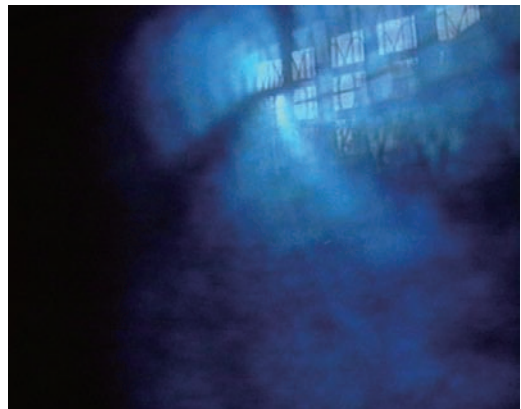
山城知佳子 《沈む声、紅い息》 2010年
シングルチャンネル・ビデオ



ブルース・コナー 《宇宙光線》 ©Conner Family Trust 1961年
16ミリフィルム



ジェネラル・アイデア 《File Magazine (vol. 6, no. 1&2)》
1984年 冊子



アピチャップン・ウイーラセタクン 《窓》 1999年
シングルチャンネル・ビデオ・インスタレーション



竹元齋量丸 《導歌》
明治時代中期 鶏卵紙に手彩色



紅谷吉之助 《無題》 1934年
ゼラチン・シルバー・プリント



作家不詳 《題不詳(ヌード)》 明治時代中期
ゼラチン・シルバー・プリント



堀与兵衛 《題不詳(岩田織部 正通徳像)》
1867年 鶏卵紙



デイスデリ 《題不詳(女性像)》 1854-1880年頃 鶏卵紙



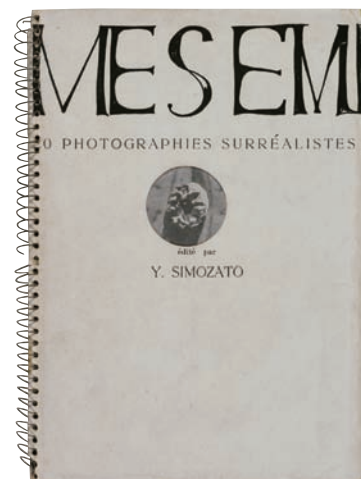
マーティン・ムンカッチ 《ロング・アイランド・ビーチのルシール・ブ
ロコウ》 1933年頃 ゼラチン・シルバー・プリント



ウィリアム=ヘンリー=ピーチ・ロビンソン
《He Never Told His Love》 1884年 鶏卵紙



スティルフリード&アンデルセン 《明治風俗写真（名刺判）》
1877-1883年頃 鶏卵紙



下郷羊雄、田島二男、坂田稔、佐藤泰平、稲垣泰三、佐野秀雄 《超現実
主義写真集 メセム属》 1940年 写真網目版印刷

調査研究・普及活動(個人)

すべての美術館事業の土台は調査研究にある。国内外の写真史・映像史・美術史や写真論・映像論・美術論の成果を踏まえ、また、社会学やメディア論などの他分野とクロス・オーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向けて、国際的な視点にたった調査研究を行い、その成果を展覧会や収集事業、普及事業等に反映すべく、学芸員ひとりひとりが日々努力している。なお、専門調査員の金子隆一の長年の研究を結晶させた『日本写真集史 60年代~70年代』(アイヴァン・ヴァルタニアン共著)がフランス・アルル国際フェスティバルで最優秀歴史部門賞を受賞した。

【東京都写真美術館展覧会図録論文】

石田哲朗

・「20世紀の人間像 すべての写真はポートレートである」『肖像 ポートレート写真の180年』収蔵作品展図録、講談社、2010年、pp. 109

岡村恵子

・「ジェネラル・アイディア——3人の男たちの共同作業 1968-1995」『ラブズ・ボディー生と性を巡る表現』図録、東京都写真美術館2010年、pp.132-136

・「デイドリーム ビリーバー 映像の力」『第3回恵比寿映像祭 デイドリーム ビリーバー!!』図録、東京都写真美術館2011年、pp.8-9

金子隆一

・「写真史における「肖像」」『肖像 ポートレート写真の180年』収蔵作品展図録、講談社、2010年、pp. 9-15

・「日本のピクトリアリズム—写真史における位置をめぐって」『芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム 珠玉の名品展』図録、東京都写真美術館、2011年、pp.7-16

笠原美智子

・「ラヴズ・ボディー生と性を巡る表現」『ラヴズ・ボディー生と性を巡る表現』展図録、東京都写真美術館、2010年、pp. 8-27

鈴木佳子

・「スナップショットの魅力」『スナップショットの魅力 かがやきの瞬間』展図録、東京都写真美術館、2010年、p.p. 92-93

・「ニュー・スナップショット」『ニュー・スナップショット かがやきの瞬間』展図録、東京都写真美術館、2010年、p.p.170-171

藤村里美

・「私を見て! ヌードのポートレート」『肖像 ポートレート写真の180年』収蔵作品展図録、講談社、2010年、pp.67

三井圭司

・「侍と私 —ポートレートが語る初期写真—」『肖像/ポートレートの180年』収蔵作品展図録、講談社、2010年、pp. 17

・「幕末~明治中期の写真文化に関する一考察」『夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 九州・四国・沖縄編 研究報告書』、東京都写真美術館、2011年、pp. 40-51

山峰潤也

・「映像をめぐる冒険vol.3 3Dヴィジョンズ—新たな表現を求めて」『映像をめぐる冒険vol.3 3Dヴィジョンズ—新たな表現を求めて』展図録、東京都写真美術館、2010年、pp. 68-74

【東京都写真美術館紀要No.10】

田坂博子

・「フィルム・キュレーションの可能性—映像アーカイブとフェスティバル」

来代紀子

・「写真美術館図書室の試み —図書館の未来を探る—」

山口孝子、高橋則英、大川祐輔

・「コロナタイプ印刷の画像保存性」

金子隆一、藤原パウラ

・「東京都写真美術館寄託の福森白洋写真作品・資料および関係資料について」

【寄稿】

石田哲朗

・「森村泰昌 なにものかへのレクイエム」東京新聞夕刊、2010年3月23日-25日

石田留美子

・「北京の写真事情」『日本写真協会2010年・冬 443号』社団法人日本写真協会、2010年、pp. 12-15

岡村恵子

・「インタビュー」『エクス・ポ』2010年、pp.351-372
・「Isaac Julien: Ten Thousand Waves」, *Flash Art* (International Edition), no.274, October 2010, p.114

笠原美智子

・「"私"を起点に仕事をする」杉田敦編『アートで生きる』美術出版社、2010年、pp 52-59

・「現代写真とは?」『Beyond, The Border』展図録、Tangram Art Center, Shanghai, 9/7-10/15, 2010, pp. 6-7

金子隆一

- ・ 展覧会監修「石川光陽写真展」旧新橋停車場鉄道歴史展示室、東京ステーションギャラリー、2010年12月7日-2011年3月21日
- ・ 「石川光陽の眼——もうひとつの近代写真」〔石川光陽写真展〕図録、東京ステーションギャラリー刊、2010年12月7日発行
- ・ 「写真技術史から見た震災写真」(北原糸子編)『写真集刊行大震災』吉川弘文館刊、2010年3月26日
- ・ 「植田正治の世界」〔浜口陽三・植田正治二人展：夢の向こうがわ〕展図録、ミュゼ浜口陽三刊 2010年7月9日発行
- ・ 「時間というディレクター——木村伊兵衛の秋田」〔木村伊兵衛の秋田〕朝日新聞社刊 2011年1月20日発行
- ・ 「平木収『写真の心』」書評『週刊読書人』2011年1月21日号

鈴木佳子

- ・ 「ニュー・スナップショット」時事通信社配信、全10回、2010年6月から7月
- ・ 「ニュー・スナップショット かがやきの瞬間」東京新聞夕刊、2011年1月11日 - 15日

藤村里美

- ・ 「展評'10」『アサヒカメラ』10月号 朝日新聞出版、2010年、pp.220-221
- ・ 「展評'11」『アサヒカメラ』2月号 朝日新聞出版、2011年、pp.184-185

三井圭司

- ・ 「偏見が射抜く真実」『東京都写真美術館コレクション展 写真家ユージン・スミスー東洋の巨人・日立をとらえた眼ー』展覧会パンフレット、日立市郷土博物館、2010年、p.2
- ・ 「日露戦争における陸軍陸地測量部の写真」〔日露戦争の写真技術〕『写真 日露戦争』(小沢健志編)、筑摩書房、2010年、pp.21-25、pp.220-221

山口孝子

- ・ 「2009年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第73巻3号、(社)日本写真学会、2010年、pp.163-164

【学会発表】

丹羽晴美

- ・ 文部科学省平成22年度科学研究グループ基盤研究(B) International Participant, Exposures2010, Tel Aviv, Israel, 2010年12月8日-14日

山口孝子

- ・ 山口孝子、森俊克、柴史之、大川祐輔、「イメージ分光情報に基づく古写真彩色材料の解析法」、2010年度(社)日本写真学

会年次大会、(社)日本写真学会、キャンパス・イノベーションセンター東京、2010年5月27日。

- ・ 山口孝子、大川祐輔、「コロナタイプ印刷の耐オゾン性 ~インクジェット・プリントと比較して~」、第32回文化財保存修復学会、(社)文化財保存修復学会、長良川国際会議場、2010年6月12日。

【講演会・シンポジウム等】

石田留美子

- ・ 講演会「アジアの肖像 北野謙」国際交流基金北京日本文化センター、国際交流基金北京日本文化センターホール、2010年7月12日
- ・ 講演会「アート・身体・インタラクティブ4 現代中国の写真家 RongRong & inriの仕事」埼玉大学教養学部東アジア文化、埼玉大学、2010年7月26日

笠原美智子

- ・ keynote speech, "What is contemporary photography? A case study of the Tokyo Metropolitan Museum of Photography (Japan)", Symposium and Round Table Discussin, Photography: Creativity vs the Market, Caochangdi Photospring- Arles in Beijing, Three Shadows Photography Art Centre, Beijing, Apr. 18, 2010
- ・ トーク・イベント「イメージを考える 笠原美智子・竹内万里子・杉田敦」美術出版社・女子美術大学大学院G P、東京都写真美術館、2010年12月19日

- ・ 「キュレーターの仕事ーアーティストと共に作り、発信する 1」3331Arts Chiyoda、2011年1月21日

- ・ 「女性とアートの関係ージェンダーの表れとまなざし」MAD集中講座、NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト]、代官山AITルーム、2011年3月4日、5日

金子隆一

- ・ 講演会「植田正治の世界」ミュゼ浜口陽三、2010年9月11日
- ・ 講演会「北園克衛を語る」世田谷美術館、2010年11月13日
- ・ 講演会「コロナタイプ150年の歩み：日本はコロナタイプの国である」コロナタイプ技術の保存と印刷文化を考える会、2010年12月11日
- ・ 講演会「名取洋之助の写真」(白山真理と対談) JCIフォトサロン、2010年12月18日

- ・ シンポジウム「なぜフィルムの保存が必要か」(金子隆一、高橋則英、松本徳彦) 日本写真保存センター主催、JCIビル6F、2011年3月5日

藤村里美

- ・ 「Viagem」Galeria municipal de Leiria, Maio 31, 2010
- ・ 「Viaje」Museu de imagem em movimento,

Septiembre 24, 2010

三井圭司

・講演会「写真方式の種類と保存および展示について」、高知ミュージアムネットワーク主催、土佐山内宝物資料館、2011年3月14日

【非常勤講師等】

岡村恵子

・武蔵野美術大学特別講師「工芸実習Ⅱ、版画実習Ⅷ、版画研究Ⅰ、版画研究Ⅲ」2010年6月5日
・早稲田大学文化構想学部招聘講師「イメージ論1 / イメージの読み方、用い方、あり方：イメージの現在」2010年7月12日

笠原美智子

・明治学院大学大学院文学研究科芸術学専攻「美術史特別講義Ⅲ」2010年前期・後期

金子隆一

・東京総合写真専門学校非常勤講師
・武蔵野美術大学芸術文化学科非常勤講師
・武蔵野美術大学映像科大学院非常勤講師
・筑波大学大学院人間総合科学研究科非常勤講師

丹羽晴美

・学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流・美術」2010年度前期

藤村里美

・武蔵大学人文学部ヨーロッパ文化学科「ヨーロッパの芸術」2010年前期
・玉川大学芸術学部ビジュアル・アーツ学科「写真史」2010年後期

三井圭司

・明治学院大学文学部芸術学科「写真史写真理論研究」2010年前期・後期

山口孝子

・東海大学課程資格教育センター「博物館学実習Ⅰ 写真技術」、春・秋学期集中講義
・東京文化財研究所、保存担当学芸員研修、「劣化と保存 各論－写真－」、2010年7月16日
・京都工芸繊維大学、「科学と芸術の出会いⅡ」、2010年12月24日

【委員・審査員等】

岡村恵子

文化庁委託事業「平成22年度メディア芸術デジタルアーカイブ事業検討会」（メディア芸術分野）委員

笠原美智子

京都賞・思想・芸術部門専門委員会委員／東京国立近代美術館評議員（美術・工芸部会）／東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員（写真部門）／財団法人西洋美術振興財団賞審査委員／財団法人周南市振興財団林忠彦賞選考委員／東川賞審査員（東川町）／群馬青年ビエンナーレ2010審査員／財団法人五島記念文化財団五島記念文化賞美術新人賞候補者推薦委員／nominator for the Prix Pictet Award／公益信託タカシマヤ文化基金「タカシマヤ美術賞」候補者推薦委員／コニカミノルタ・フォト・プレミオ選考委員

金子隆一

学校法人写真学園理事長／日本写真協会理事／日本写真芸術学会理事／文化審議会専門委員／松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員／東京国立近代美術館収集委員会委員／高浜市やきもの里かわら美術館運営審議会委員／横浜市美術資料収集審査委員／芸術選奨推薦委員／日本写真保存センター諮問調査委員／平城遷都1300年記念入江泰吉写真賞審査員

関次和子

高浜市やきもの里 かわら美術館収蔵品評価委員

田坂博子

文化庁委託事業「平成22年度調査研究 メディアアートの記録と保存」におけるワーキング・グループ研究会構成員

丹羽晴美

福島市写真美術館企画専門委員／社団法人日本広告写真家協会公募展審査委員

山口孝子

日本写真学会編集委員／日本写真学会画像保存研究会委員／日本写真保存センター設立委員会調査委員／国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員／国立国会図書館資料保存懇話会委員



インターン

写真美術館では平成20年度よりインターン制度を導入している。1年間、指導学芸員と共に美術館のスタッフとして展覧会や普及事業、広報事業等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材を育成することに寄与することを目的としている。第3期となった平成22年度のインターン生および担当業務は以下のとおりである。

天野圭悟

担当業務：展覧会補助
「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」展補助
古典技法ワークショップ他補助
指導学芸員：三井圭司

神谷知里

担当業務：展覧会補助
第3回恵比寿映像祭補助
指導学芸員：岡村恵子

高島圭史

担当業務：教育普及事業補助
ワークショップ、スクールプログラム、ボランティア事業補助、展覧会事業補助
指導学芸員：石田哲朗

Mark Feary

担当業務：展覧会補助
第3回恵比寿映像祭補助
指導学芸員：岡村恵子

藤原パウラ

担当業務：展覧会補助
「芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム 珠玉の名品展」補助
コレクション調査補助
指導学芸員：金子隆一

増田ひろみ

担当業務：広報事業補助
「あ・ら・かるチャー 渋谷、恵比寿、原宿」事業補助、プレス・ギャラリー・ツアー補助、美術館オリジナル・カレンダー制作、「お正月開館」事業補助、その他広報事業補助
指導学芸員：山崎尚之

広報事業

平成22年度は、お客様のニーズに応えるために、わかりやすい情報提供を心がけ、気軽に参加できるイベントを多く企画した。

1 広報誌「写真美術館ニュースeyes（アイズ）」発行（vol.66～vol.69）季刊、発行部数：各号30,000部

<巻頭記事>

66号「オノデラユキ 写真の迷宮（ラビリンス）へ」

67号「ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現」

68号「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編」

69号「ジョセフ・クーデルカ ブラハ1968」



ニュース66～69号表紙

2 ホームページの活用

平均アクセス数は約45万ページビュー（以下PV）で推移し、平成22年8月には576,787PVと年間を通じて高いPVを達成した。平成21年度末のホームページ刷新の影響により、ユニークユーザー数は増加、1ユーザーあたりの閲覧ページ数はやや減少し、サイト内で効率的な情報入手が行われていると考えられる。頻繁な新着情報の更新により、強調すべき内容を短期集中的に告知できている。

年間を通して展覧会と館に関連した検索キーワード広告を出稿しアクセス増を促した。

東京都写真美術館公式ホームページ www.syabi.com

3 プレスリリース作成・発送およびプレス取材対応

リリース数は各回約680件。また、電話・FAX・メールでの記事掲載対応の他、取材依頼、撮影・収録・オンエアーの立ち会いなどをおこなった。

4 チラシ・ポスターの配布

マスコミ、美術館、写真、教育関係など各所にチラシ・ポスター等の掲出物を送付。展覧会毎にターゲットを絞った配布先を増やし、配布を強化した（各回約300件）。

5 懸垂幕、壁面スペースへの掲出

JR恵比寿駅側の懸垂幕、壁面スペースへの掲出や、恵比寿ガーデンタワー側の巨大写真掲出および縦位置壁面スペース（3枚）の利用で、写真美術館の活動やイメージを発信した。



館ディスプレイシート掲出例



懸垂幕掲出例

6 広告スペースへの掲出

(1) 交通広告

年間を通じて首都圏JR・地下鉄の窓上広告、JR恵比寿駅東口改札内柱広告、恵比寿スカイウォーク入口電飾広告、恵

比寿スカイウォーク内電飾広告、恵比寿スカイウォークパ
ーを行った



恵比寿スカイウォークパナー広告掲出例
(掲載期間：2010/12/10-12/24)

(2) 新聞広告

展覧会やイベントを広く告知するために、新聞広告を掲載した。
出稿は下記の通り。

- (ア)「侍と私ーポートレイトが語る初期写真ー」
朝日新聞 平成22年5月26日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段
- (イ)「オノデラユキ 写真の迷宮(ラビリンス)へ」
朝日小学生新聞 平成22年7月26日(月)
サンケイリビング 平成22年7月31日(土)
- (ウ)「私を見て! ヌードのポートレイト」
朝日新聞 平成22年7月28日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段
- (エ)「ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現」
朝日新聞 平成22年9月29日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段
- (オ)「二十世紀肖像 全ての写真はポートレイトである。」
朝日新聞 平成22年10月6日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段
- (カ)「日本の新進作家展vol.9[かがやきの瞬間] ニュー・
スナップショット」
朝日新聞 平成22年12月8日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段
- (キ)「スナップショットの魅力[かがやきの瞬間]」
朝日新聞 平成22年12月8日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段
- (ク)「お正月特別開館」

- 朝日新聞 平成22年12月31日(金)
東京本社版朝刊(約330万部)
5段1/4(記事下)
読売新聞 平成22年12月31日(金)
東京本社版朝刊(約580万部)
5段1/4(記事下)
- (ケ)「3Dヴィジョンズ 新たな表現を求めて」
朝日新聞 平成22年12月22日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段
- (コ)「来館者500万人記念」
朝日新聞 平成23年1月19日(水)
東京本社版朝刊(約330万部)
全15段(1ページ)
- (サ)「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・
九州・沖縄編」
読売新聞 平成23年3月2日(水)
東京本社版朝刊(約580万部)
全8段(記事広告)
朝日新聞 平成23年3月2日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段
- (シ)「芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム 珠玉
の名品展」
朝日新聞 平成23年3月2日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)
アート欄下 半5段



「私を見て!」掲載広告(朝日新聞)



「夜明けまえ」展掲載広告（読売新聞）



「来館者500万人記念」掲載広告（朝日新聞）

(3) ポストカード型・しおり型広告

- (ア) 「侍と私ーポートレートが語る初期写真ー」アドカード
平成22年4月28日（水）～30,000枚
- (イ) 「オノデラユキ 写真の迷宮（ラビリンス）へ」アドカード
平成22年7月15日（木）～30,000枚
- (ウ) 「私を見て！ ノードのポートレート」アドカード
平成22年7月15日（木）～30,000枚
- (エ) 「ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現」アドカード
平成22年9月22日（水）～40,000枚
- (オ) 「二十世紀肖像 全ての写真はポートレートである。」アドカード
平成22年10月7日（木）～30,000枚
- (カ) 「日本の新進作家展vol.9[かがやきの瞬間] ニュー・スナップショット」アドカード
平成22年12月6日（月）～30,000枚

- (キ) 「スナップショットの魅力[かがやきの瞬間]」アドカード
平成22年12月6日（月）～30,000枚
- (ク) 「3Dヴィジョンズ 新たな表現を求めて」アドカード
平成22年12月10日（金）～40,000枚
- (ケ) 「芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム 珠玉の名品展」アドカード
平成23年2月24日（木）～30,000枚
- (コ) 「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編」DUE
平成23年2月24日（木）～30,000枚



アドカード制作例

7 記者懇談会の実施

(1) 記者懇談会①

平成22年6月15日（火）16:00～18:00
出席者数：20社23名
＜主なプログラム＞
【第1部】1階創作室
平成22年度に向けてのメッセージ（館長 福原義春）
平成21年度事業実績報告
第2回恵比寿映像祭実績報告
平成22年度展覧会の紹介
懇談
【第2部】1階 カフェ シャンブルクレール
懇談

(2) 記者懇談会②

平成23年1月20日（木）16:00～19:00
出席者数：20社28名

<主なプログラム>

【第1部】1階創作室

平成21年度事業外部評価
平成22年度・平成23年度企画展紹介
第3回恵比寿映像祭紹介
平成22年度新規収蔵作品紹介

【第2部】2階作業室・3階作業室

平成22年度新規収蔵作品の実見
懇談（1階 カフェ シャンブルクレール）



平成23年1月20日（木）記者懇談会

8 プレス向けギャラリートัวร์の実施

すべての収蔵展および自主企画展について、特別鑑賞会と同日（特別鑑賞会がない場合は展覧会初日前日）に、プレス向けギャラリートัวร์を開催。学芸員と作家自身による展覧会解説を積極的に行った。（全12回）。



「ラヴズ・ボディ」プレストアー

9 クリスマスライブ・夜間開館無料の実施

「日本の新進作家展vol.9[かがやきの瞬間] ニュー・スナップショット」関連のミュージシャンを招き、クリスマスライブを実施。同時に、写真美術館の周知を目的に、12月24日（金）クリスマスライブの夜間開館を無料とした。

イベント名：Syabi Christmas Live

開催日時：平成22年12月24日（金） 18:30～19:15

場所：東京都写真美術館 2階ラウンジ

演奏：ダニエル・コフリン（ギター） 入場無料



クリスマスライブ 2階ラウンジ

10 年始特別開館

平成23年の正月特別開館では、1月2日は入場無料、3日は割引料金を設定した。期間中（1月2日～3日）は、特別フロアレクチャーや雅楽コンサート、クイズ、プレゼントなどを用意し、来館者が一日をとおして美術館で楽しく過ごせるように工夫した。



お正月開館告知（JR恵比寿駅）



お正月開館風景 2011/1/2
（しゃび雅楽）



お正月開館風景 2011/1/2
（ニュー・スナップショット展レクチャー）



お正月開館風景 2011/1/2
（3D展レクチャー）

11 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」発行

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として「nya-eyes」(ニアイズ)を創刊。講談社モーニングに連載の漫画「クレムリン」(作者：カレー沢薫)とコラボレーションし若年層をターゲットに、館外を中心に配布した。



ニアイズ 1号表紙

12 来館者500万人記念来館促進イベントの実施

来館者500万人記念来館促進イベントを、プレスリリース、ホームページ、新聞広告(6(2)(コ))などにおいて告知し実施した。

- (ア) 500万人達成日クイズの実施
(実施期間 平成23年1月19日～2月13日)
抽選でコンパクトカメラ用ストラップをプレゼント
- (イ) 上記期間中の来館者全員にポストカードをプレゼント
- (ウ) 500万人達成セレモニーの実施
- (エ) 500万人達成の記念として、「芸術写真の精華 日本
のピクトリアリズム 珠玉の名品展」「夜明けま



(ウ) 500万人達成セレモニー(江川秀章副館長と500万人目の来館者)

え 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編」各展の初日の無料観覧



(ア) プレゼント用ストラップ (イ) ポストカード

13 恵比寿地域における連携キャンペーンの実施

恵比寿地域の活性化と集客を目的としたキャンペーンやイベントを実施するために、月に1回、恵比寿の施設が集まりミーティングを開催した。参加施設は、恵比寿ガーデンプレイス、アトレ恵比寿、エビスビール記念館、東京都写真美術館、山種美術館(平成23年3月現在)。

・第1回キャンペーン

イベント名：「Welcome! 恵比寿」

実施期間：平成23年2月18日(金)～4月17日(日)

内容：新しく恵比寿を訪れる人に対して恵比寿の街の回遊を提案。写真美術館として、展覧会チケットの提示によるアトレ店舗での割引サービスを提供。